

〔忠利宿禰記〕承應三年十一月廿八日、花町宮○後西院有踐祚之事○中略
調進○中掃部寮 清涼殿夜御殿 纒○綱端畫御座 四帖

〔仁孝天皇御即位記〕御即位調進物御下行

掃部寮分 同○九石清涼殿後房二代經綱御座二帖

つかなみ

〔倭訓栞前編十六〕つかなみ。藁藉をいふ、方丈記に、つかなみを敷て夜の床とすといへり、束并の義、束藁を席とする也、盛衰記にも、わらのつがねといふ物をしきてといへり、ねこだ。是也、俊頼

あらしのみたえぬみやまに住たみは幾重かしけるとふのつかなみ
とふは藁を組たる體也、とふのすがごものごとし。

〔散木弁詞集四〕山家嵐をよめる

嵐のみたえぬみ山にすむたみはいくへかけ、るとふのつかなみ

〔袖中抄十四〕とふのすがごも

俊頼、山家嵐歌あらしのみたえぬみやまにすむたみはいくへかしけるとふのつかなみ、つかなみとて、わらをあみてしく也、わらぐみ、あうしき、ねこがきともいふ、

〔方丈記〕爰に六十の露きえがたにをよびて、更に末葉のやどりをむすべる事あり○中略其家の有様よのつねならず、ひろさわづかに方丈、たかさ七尺ばかりなり○中略東にそへてわらびのほどろをしき、つかなみをしきて夜の床とす、

〔源平盛衰記七〕信俊下向事

信俊不斜悦テ、太納言○藤原成親ノオハスル所へ參テ奉見ニ、淺マシク悲カリケル事ガラ也、奇氣ナル小屋ニ、垣ニハ土ヲ壁ニ塗廻戸ニハ藁ノコモヲ懸垂タリ、内ニ差入テ見廻セバ、藁ノ東ト云物ヲ敷テ、瘦衰タル法師アリ、ヨクく見レバ、大納言入道殿ニテゾオハシケル、